

はぐるま

平成31年1月発行 97号

目次

- ・新年のご挨拶 —2
- ・最新鋭CT装置を導入 —3
- ・新任医師紹介 —4
- ・日経デジタルヘルスの座談会に参加 —4
- ・看護部だより —5
- ・受付・会計及び待合室をリニューアル —6
- ・在宅要介護者の応援団 —6
- ・看護部懇親会 —6
- ・恒貴会日帰りバス旅行 —6
- ・恒徳会だより —7
- ・外来診療担当医表／編集後記 —8

最新鋭CT装置が稼動！

県西地区で初となる「フィリップス社製 Brillance iCT 256」が稼動しました。
この装置の運用により、世界最高峰の検査と診断が可能となります。



Brillance iCT 256

協和中央病院が採用したフィリップス社製
Brillance iCT 256スライスX線CT装置
は、世界最高峰の検査性能を有しております。

- ①高精細画像で病変と疑病変の区別を明瞭にすることが可能になりました。
- ②従来のCTでは検査が困難な症例である不整脈や高い心拍の方の心臓検査が可能になりました。
- ③短時間の検査中の息止めで、全身検査が可能になり、患者様の負担も軽減できるようになりました。
- ④造影剤の量を減らし、患者様の身体の負担を軽減しながら、全身血管状態を検査することが可能になりました。
- ⑤診断の妨げとなる生体内金属の影響を最小限にし、安定した画質での撮影が可能になりました。

明けましておめでとうございます

地域の皆様に支えていただき、今年も無事に新年を迎えることができました。感謝申し上げます。

さて、昨年は10月に近隣に茨城県西部メディカルセンターが開院しました。我々にとっても近隣の病院開院は大きな関心事でした。それぞれの病院単独での医師確保が難しいため、また病床数削減の計画もあり、県西総合病院と筑西市民病院が統合されたわけです。新しい病院が充実されて地域に貢献してくれるものと思います。恩恵を受ける方が多いと思いますが、これらの施設から遠く離れた方々、特に高齢者は通院に不便を感じておられるのではないのでしょうか。地域の医療の充実を考えれば致し方ないことかもしれません。

世の中では角界の不祥事や大学医学部の不正入試、北海道の震災などの出来事があった一方、野球の大谷翔平選手の活躍や北朝鮮とアメリカとの対話があるなど喜ばしいこともありました。特に北朝鮮の非核化は良い方向に向かうことを願っています。

また昨年は協和中央病院のCTを最新の機器に入れ替えました。患者さんにより高度な検査を提供できると思います。恒貴会の各施設もそれぞれ大過なく運営されました。地域に溶け込んでいける施設を目指して頑張りました。

元号が変わる今年は、4月末で現天皇が退位され、5月からは新天皇が即位されます。めでたいことです。当初昨年に発表される新元号が即位前に発表されるようすし、4・5月の十連休など混乱もあるようです。長期の休暇はうれしいのですが医療の世界では困ることもあります。病院や施設を十日間も休みにすることは患者さんや施設の利用者さんを考えると難しいと思いますが、職員にも休む権利がありますので頭の痛い話です。恒貴会でも何日かを稼働させるつもりですので、決まりましたら早めに発表したいと考えております。

また昨今思うのですが、地域の皆様に貢献するにはどのような医療介護の施設にすべきなのでしょう。急性期の患者さんへの対応も勿論必要ですが、果たしてそれだけで地域の医療施設の役目は十分でしょうか。地域の民間病院は患者さんや施設利用者さんに満足していただかなければ、存在価値はなくなります。急性期そして回復期・慢性期まで、また在宅の患者さんにも総合的なバランスの良い医療・介護のサービスを提供してこそ満足していただけたと考えております。恒貴会も当初このような考えのもと、各施設を作ってまいりました。また最近は急性期・慢性期・施設それぞれの役割が明確に区分されるようになり、急性期の病床数は以前ほど必要なくなってきました。急性期一辺倒ではなく、軸足を少し回復期・慢性期・在宅医療に移すべきではないかと考えます。もう一度原点に立ち返りたいと思います。

今年も職員一同精一杯努力しますので、どうか地域の皆様には温かなご支援ご協力をお願いいたします。皆様にとって今年もよい年になるよう祈っております。



医療法人 恒貴会
理事長
中原 昇

あけましておめでとうございます

昨年中は皆様方には大変お世話になり感謝いたしております。本年も皆様のご活躍、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。

昨年は大規模な自然災害が多発して、大変多くの方々が犠牲となりました。豪雨、台風、地震と次々に襲いかかる自然の脅威を目の当たりにし心を痛めました。改めまして被災されました方々にお見舞い申し上げます。

年々天候が激しさを帯びて来ているのを感じます。夏の豪雨の強さには恐怖に近い感覚です。恒徳会の各施設とも建設から年月を経て激しい雨では建物内に吹き込んで来ることもあり、皆様にもご迷惑をおかけしております。

すみれ園では施設の老朽化が目立ち、建て替えを考慮するなど具体的に検討する時期にあると思います。

菫授園では地域貢献活動として下館さくらまつりや地元の夏祭りにパンの販売で参加し、地域の小学生と家族にパン作り体験教室を行いました。

桃香園では職員の負担軽減のため介護リフトを増設できたことは、職場環境の改善にもなったと思います。

恒幸園は特殊浴槽の更新により快適に入浴が可能となり、喜ばれております。

ハード面での改善はもとより、人材育成、職場環境の改善と魅力ある職場づくりをさらに推進し、地域貢献活動などを通してご利用者様本位の施設運営のため、本年も継続して努めて行かなければなりません。

今年は新天皇が即位され、新たな時代の幕が開きます。また新元号下最初に茨城で国体が開催されます。さらに第19回全国障害者スポーツ大会いきいき茨城ゆめ大会が開催されます。障害者の社会参加推進、バリアフリーの意識の高揚と、来年に迫ったオリンピック、パラリンピックに向けて弾みをつけるように盛り上がりを見せるものと期待しております。

恒徳会も社会的な意識の高まりをしっかりと受け止め、ご利用される皆様のニーズに対応できるようさらなる経営努力をして行く必要があります。引き続きまして地域の皆様のご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成31年が皆様にとって素晴らしい年でありますよう祈念いたします。



社会福祉法人 恒徳会
理事長
久野 貴俊



高性能、高速CT装置の導入

協和中央病院
放射線科
部長
阿武 泉



画像診断機器による病気の画像診断は近年ますますその重要性が増しています。画像診断とはX線撮影、超音波断層（エコー検査）、CT、MRI、その他多岐にわたります。例えば腹痛の患者さんが来院した場合、X線撮影、超音波でも重要な情報が得られる場合がありますが、やはりCTでお腹の中がどのような状態になっているのかを検査することが治療法の選択、手術の範囲決定、予後の判定に重要となってきています。

今回当院が導入したCTは、常用のCTでは最速、最高級の機種です。以前の装置は1回転で32枚の画像を撮影するCTでしたが、今回導入したものは1回転で256枚の画像を撮影でき、さらに回転速度も最高速の機種です。これにより、大動脈解離の診断、心臓特に冠動脈狭窄の診断に威力を発揮します。



心臓3次元画像



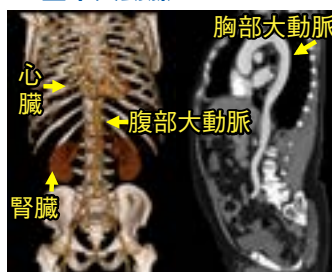
高分解能撮影



広範囲CT血管撮影画像

昨今、日本では食生活の欧米化に伴い血管の閉塞性疾患が増加していることは皆さんご存じのことだと思います。さらに、関東から東北にかけては塩分の多い食事が好まれ、県西地区も例外ではありません。このため早い人は40代から脳梗塞、心筋梗塞などの血管疾患が見られます。動脈閉塞により組織が梗塞（組織が死んでしまうこと）を起こすと、再生はまずできません。従って、組織が死ぬ前に早期発見することが最も重要となります。今回導入したCTでは大動脈、腹部動脈、四肢の動脈の異常の診断に従来以上に効果を発揮します。無論、従来の腹部臓器の診断も従来のCTと比べてより正確、精密な診断が可能となります。

正常大動脈のCT



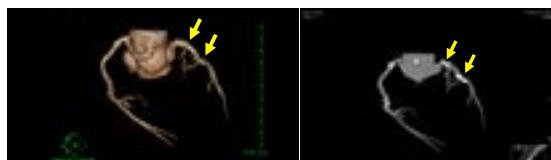
左側は大動脈、心臓、腎臓の三次元画像、右側は断面像。大動脈の異常、例えば閉塞、狭窄、動脈瘤、大動脈解離などが診断できる。大動脈解離は、急死の原因となり得ることで知られている。

心疾患の診断法

心臓の疾患には多くの種類がありますが、中高年に多いのは狭心症、心筋梗塞に代表される虚血性心疾患です。虚血性心疾患とは心臓の筋肉に血液を送り酸素と栄養素を供給する血管（冠動脈）が細くなったり、途絶えてしまい心筋が十分に機能しなくなる、あるいは心筋が死んでしまう病気です。高血圧、糖尿病、高脂血症その他で血管が細くなったり、途絶してしまう病気は全身病といっても差し支えありません。脳の動脈が狭窄している場合には高い頻度でその他の動脈、例えば心臓の冠動脈、大動脈、脚の動脈の狭窄も見られます。この狭窄の度合いを事前に診断して、心筋梗塞に発展する前に治療することが重要となります。この動脈の“狭窄疾患”に今回のCTは威力を発揮すると言われています。心臓の検査と言えば皆さんは心臓カテーテル検査を思い浮かべるかもしれませんが、それは心臓に管を入れる危険な検査と思うかもしれませんが、今回導入した超高速CTによる検査は、大別して2つの方法があります。

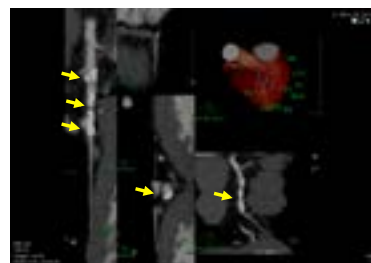
1つ目は造影剤を使わないで“単純CT”を撮影する方法です。これはほんの数秒息を止めるだけで検査は終了です。この検査は心臓の冠動脈にどの程度の石灰化（動脈硬化）があるかを診断する方法です。石灰化が多ければ冠動脈が狭窄している頻度も多いのは当然です。

冠動脈石灰化の評価



- ・冠動脈の石灰化は動脈硬化、動脈狭窄の指標となる。左側は造影剤静注CT、右側は単純CT
- ・冠動脈が狭窄すると、狭心症、心筋梗塞に発展し、最悪の場合は心臓停止、心臓破裂の原因となる。
- ・事前の評価が大切

冠動脈狭窄

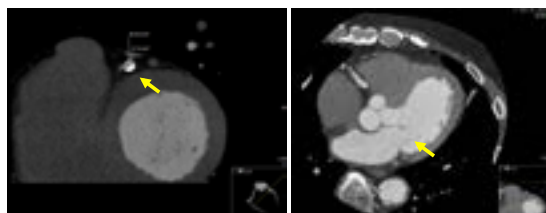


- ・冠動脈に厚い石灰化があり（→）、血管内腔の狭窄が見られる。蛇行、屈曲した冠動脈を直線化して表示している。

2つ目は造影剤を用いて冠動脈の狭窄そのものを見る方法です。

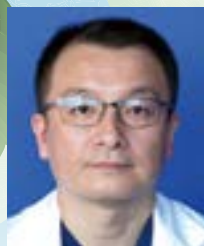
この方法は腹部の造影検査などと同様に造影剤を腕から注入して撮影します。CTのベッドに寝ている時間は腹部検査よりも少し長くなりますが、注射時以外特に痛みはありません。この検査と併せて、心電図、症状、その他の検査で異常が確認できれば、治療に進むことになります。

心臓輪切り断面



- ・左側写真では冠動脈の断面は半分以上狭窄している（→）白い部分が内腔
- ・右側写真では左心室断面では心臓の弁（僧帽弁・細いスジ）が見える（→）、狭窄や閉鎖不全で心不全が発生する。

新任医師紹介



協和中央病院
心臓血管外科
医長

こくぼ ひろあき
小久保 弘晶

こんにちは。10月1日から着任しました小久保です。
僕の生まれは和歌山県和歌山市です。小学校6年生
まで和歌山で暮らしていました。僕の父は花王石鹼
の研究所に勤務しており、僕が生まれた頃には和歌
山の研究所に勤務していましたが、その後転勤して
栃木県芳賀郡市貝町の研究所で定年を迎えました。

僕が高校生の頃には、春休みに父の勤務先に遊びに行き、自転車を借り、益子焼きを品
定めしながら茂木や真岡のあたりをふらふらしたこともあります。

父方は栃木県の出身で小久保の本家の墓も壬生町にあり、母方は茨城県北部の久慈郡里
美村（現・常陸太田市）の出身です。つまり、僕にとって北関東のあたりはなじみのある
場所なのです。

平成11年に東北大学を卒業し研修医となり、外科レジデントを経て東北大学大学院医学
系研究科心臓血管外科分野に進学しました。平成19年から水戸医療センター心臓血管外科に勤務し、平成23年
からは県西総合病院内科に勤務しておりました。

大学院在学中は、胸腹部大動脈置換手術における脊髄保護を研究テーマとしていました。胸腹部大動脈置換
術で起こる重篤な合併症として、対麻痺があります。胸腹部大動脈動脈再建中に起こるAdamkiewicz動脈への
短時間の血流途絶が脊髄前角細胞のapoptosis（programmed cell death）を誘起し、その結果motor neuron
のみが選択的に脱落・障害を受け、sensory neuronは機能が保たれる「対麻痺」という状態になると考えられ
ています。

僕の研究テーマは、脊髄を冷却し、さらにエリスロポエチンを投与することで脊髄前角細胞のapoptosis
（programmed cell death）を抑制し、対麻痺を予防することができないかというものでした。研究モデルとし
て筋萎縮性側索硬化症（ALS）を使い、既にエダラボン（商品名ラジカット）はその有効性が確認できていました。

具体的には、胸腹部大動脈置換術の手術前日に、透視下で脊髄Th10レベルの硬膜外腔に12Gのダブルルー
メンのCVカテーテルとサーミスタ（温度センサー）のついたスパイナルドレナージを挿入し、手術中は冷却し
た生理食塩水をCVカテーテルから硬膜外腔に還流させ、スパイナルドレナージで脊髄腔を減圧しながら、温度
と脊髄内圧を計測・記録していました。

僕の時には、前日から冷凍庫で凍らせた生理食塩水を解かして使用するという方式を改め、生理食塩水の冷
却にCP（心停止液）回路を利用するように変更し、本来は輸液を温めるために使用するHot Wireを保冷に応用
するなどDeviceの工夫を行いました。

胸腹部大動脈置換術で起こる対麻痺の発生頻度は30%前後といわれていますが、東北大学ではこの手技によ
り対麻痺の発生頻度を3%前後に抑制できていました。

現在の仕事は、これらの研究とは全く関係がありません。心臓血管外科ですらありません。しかし、僕はそ
れでいいと考えています。

僕が医師を志した理由は、幼い頃怪我をした時に、自分を治療してくれたお医者さんに憧れたからでした。

「あの時の先生のように僕もなりたい。受けた恩を誰かに返したい」その憧れは、医師になってからは「自分
がする仕事で、患者さんに喜んでもらいたい」という目標に変わっていきました。それを達成するためであれば、
専門科は関係ないと思っています。みなさん、よろしくお願いします。



血行動態モニタ「ヘモスフィア」

日経デジタルヘルスにパネリストとして参加

日経デジタルヘルス主催の座談会、医療従事者の働き方改革と医療の未来像を語ろう「働
き方改革が切り拓く、ソーシャルホスピタル実現への処方箋」の議論が、2018年5～6
月にわたり3回開催され、当法人、訪問看護ステーション愛美園の所長・中島由美子がパ
ネリストとして参加しました。

一タスクシェアの原点は患者のためと題し、訪問看護ステーション内での、看護師
と介護士がタスクシェアを積極的に進めている具体的な内容を紹介し、タスクシェアリ
ングの推進を議論してまいりました。

日経デジタルヘルスに掲載された詳しい内容は当院のホームページに掲載しましたの
でどうぞご覧ください。



医療法人恒貴会
訪問看護ステーション
愛美園 所長・副看護部長
中島 由美子

看護部だより

私たち看護係長会では、業務の円滑な運営と向上を図る、働きやすい環境づくり、スタッフ育成支援の役割をもち、様々な活動しております。教育、業務に関わる管理・支援活動を通し「患者様と共に歩み、満足していただける看護の提供」に努めております。

看護部係長の役割と活動報告



看護補助者研修

協和中央病院 南2階 看護係長 飯村 真由美

年1回、看護補助者に対し、看護師と共に患者様の体調に合わせた臨機応変な対応と、きめ細やかな援助ができるよう『看護補助者研修』を行っております。研修では、オムツ交換、患者様の移送・移動、感染対策、食事の援助、安楽な体位変換などの演習を交えて知識の共有を図っております。



介護士研修（体位変換）

新人研修

協和中央病院 北1階 看護係長 渡邊 賀子



新人研修

新人職員を対象に看護・介護業務の理解を深めるために入社後5日間実施しております。

また、先輩看護師が指導することで、顔合わせの機会にもなり、各部署配属後も安心して業務できるような環境づくりを目指してまいります。

新人リフレッシュ研修『なごみ会』

協和中央病院 手術室 看護係長 内山 千尋

新人看護師の心身のリフレッシュと同期や他病棟の看護師とのコミュニケーションを図る目的として毎年7月頃に開催しています。講師をお招きして「可愛いパンダの巻き寿司作り」や「そば打ち体験」などグループ別に楽しく会話をしながら作業することで、仕事とは違う一面を見ることができ、笑顔が見られ楽しいひとときを過ごすことができます。新人看護師が慣れない仕事を一生懸命にしている中、実施することで少しでも癒しの時間となるよう今後も実施して行きたいと思っております。



なごみ会
（そば打ち）

接遇委員会

協和中央病院 新館2階 看護係長 木城 博美

接遇委員会の取り組みとし月ごとに接遇目標を決め、ポスター作成と掲示を行っております。また年2回の接遇アンケートと髪色チェックを実施することで自分の接遇への振り返り場として活用し、一人ひとりが病院の顔であるという自覚がもてるよう意識の向上に努めております。

介護士会議

協和中央病院 新館3階 看護副係長 稲葉 未希

月に1回各部署の介護士が集まり、日頃業務において困っていることや疑問点等を話し合っています。介護士中心の話し合いのため、活発な意見交換が行われています。その結果を係長会で話し合い、業務改善や介護士教育に取り組んでおります。

褥瘡対策委員会

協和中央病院 外来 看護係長 大畠 真梨

入院患者様に褥瘡を起こさないための対策を行うことを目的としています。毎月1回、褥瘡保有者に対し皮膚・排泄ケア認定看護師を中心に褥瘡・NST回診を実施しています。ケアの充実、他職種連携により創傷治癒の促進と悪化防止を図り、アセスメントスキルの向上を図っております。



褥瘡・NST回診

認知症対策委員会

協和中央病院 北2階 看護係長 鈴木 明美

入院生活の中で楽しみをつくる、入院中にくずれてしまった生活リズムを取り戻し、家庭に帰れる準備に繋がれるようにと、1回30分と短い時間ではありますが週4回【院内デイケア】というレクリエーション活動（ぬりえ・体操・計算・輪投げなど）を行っております。

看護の日

協和中央病院 北1階 看護係長 吉村 順子

5月12日はフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ「看護の日」が制定されました。「看護の心をみんなに」をテーマとして、地域の人々が健康問題について気楽に相談できる「まちの保健室」を毎年5月第2水曜日に開催しております。

協和中央病院 受付・会計及び待合室をリニューアルしました！

協和中央病院のリニューアルでは、木目などを使用して全体的に自然色を基調としたデザインとし、落ち着いた雰囲気でお客様にくつろぎながらお待ちいただくため、待合室の椅子も新しくして、新たに6人が座れるカウンタースペースも設けました。今まで以上に患者様が心地よく診察を受けていただけるよう今後とも努力してまいりますのでよろしくお願いします。 経営企画課 課長 飯泉 茂徳

受付



待合室の椅子



カウンタースペース



X線室入口



協和ヘルシーセンター 『在宅要介護者の応援団』

平成28年5月にリハビリ棟を増築し、早くも2年が経ちました。増築棟では、充分なりハビリ、入浴スペースがあり、ご利用される方が快適に過ごされております。当通所リハビリテーションでは1日利用定員100名で運営しており、現在、登録者215名の方々にリハビリ、入浴、健康管理を提供しております。特化しているリハビリは、理学・作業療法士が11名体制で個々に対応したリハビリテーションに努めており、1日平均78名が送迎サービスを利用してしております。車両を増やし、現在は10台で運行しております。

ご利用される方々のご希望に沿い柔軟に対応させていただき、リハビリのみの短時間利用も受け付けております。また、居宅介護支援事業所も併設しており、介護保険を利用する際に必要な居宅サービス計画（ケアプラン）を本人、家族の意向に沿って作成し、サービス調整を行っております。現在、2名の介護支援専門員で運営しておりますが地域のニーズに応え、人員を拡充し、利用者、家族に寄り添った支援をしていきたいと考えております。

今後も、ご利用される方々にきめ細かいサービスが提供できるよう、職員一同努めてまいります。



協和ヘルシーセンター
通所リハビリテーション主任
田辺 雄也



業務委託による送迎車の
安心、安全な運行



充実した人員体制によるリハビリテーション
(機能回復訓練室)

看護部懇親会ハーバリウム



この度、ハーバリウム作りに参加しました。久しぶりに落ち着いてドライフラワーを選んだり、夢中になりながらも皆さんと何気ない話に花を咲かせ、楽しい時間を過ごすことができました。美味しいお茶やケーキもいただきまして、満たされた気分になりました。また、機会がありましたら参加したいです。ありがとうございました。

協和中央病院 新館3階 看護師 野寺 美里

看護部主催のハーバリウム教室に参加しました。初めての体験だったのですが、色とりどりの花の中から好きなものを選び、並べ方や色の組み合わせをして瓶につめている時には、不思議とカラーセラピーを受けているような感覚で、ストレスも解消されて、ゆっくりとした気持ちになることができました。他の参加者の方との話も弾み、短い時間でしたが、有意義な時間を過ごすことができ、また、日々の業務に向けて前向きに取り組もうという気持ちになりました。また、このような機会があれば、参加したいと思います。

協和ヘルシーセンター 看護師長 遠山 信子

恒貴会日帰りバス旅行

平成30年度に5回企画した日帰りバス旅行も無事に全日程を終了することができました。今回は①東京ディズニーランド（11月11日）、②迎賓館・帝国ホテルランチバイキング（12月2日）の報告をいたします。

東京ディズニーランドは、職員の子どもの参加もあり、日頃忙しくてなかなかお子さんとコミュニケーションが取れてなかった職員からは「子どもたちとゆっくりディズニーランドを楽しめた」、「また、家族と一緒に楽しめる企画をしてほしい」等の声が聴かれました。迎賓館では非日常的な体験をし、帝国ホテルのランチバイキングでは日本を代表するホテルでの食事に舌鼓を打ち、とても満足してもらえたと思います。今回バス旅行では職員間のコミュニケーションはもちろんですが家族間のコミュニケーションを深める機会も必要だと感じました。来年度もまた色々な企画を検討していきたいと思います。



迎賓館にて

人事課 副課長 稲見 英章

恒幸園



恒幸園
デイサービスセンター
生活相談係長
上野 公一

創作レク「干支の張子」

今年は亥年。干支の「はりこ」を利用者様と一緒に作成いたしました。カプセルの底に重りを入れて、「おきあがりこぼし」のように倒しても起き上がるようになっています。

イノシシの顔を書く時が、いちばん緊張すると同時に、利用者様の個性が出るようです。

見学していた利用者様に見せると、「これはブタかな?」「角があるからイノシシじゃないの?」など楽しく盛り上がりしました。

いよいよ今年で平成が終わり、新しい元号に変わります。



恒幸園デイサービスも、時代の波に乗りつつ、これまで通り「相手の立場に立つ」介護を心掛けて、関係する皆様に安心できるサービスを提供してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

桃香園



桃香園
生活支援係長

介護リフトを導入しました!

介護の仕事は、腰痛が職業病と言われるほど深刻な問題となっています。桃香園では、職員を守る態勢づくりを目指し、介護リフト12台の導入とリフト研修会を3回実施し、「持ち上げない介護」を目標に日々奮闘しています。しかし、現実問題としてリフトの使用に時間が掛かり、一日の業務がスムーズに行えないという問題点から、リフトの稼働率低下が心配の種です。しかし、介護職員の身体的負担や離職者を減らしていくためにも職員の意識改革が必要であると考え、引き続き研修を実施するとともに、利用者様に安全安楽にリフトに乗っていただけるよう、また、職員全員が介



護リフトのスペシャリストになれるよう努力していきたいと思っています。

すみれ園



すみれ園
生活支援主任
武井 大輔

丁寧な支援

すみれ園では、「丁寧な支援」を全職員が心がけて、日々のサービスを提供させていただいております。

施設で生活している利用者様への支援は、日々の生活支援を繰り返す行方の中で、マンネリに陥り、ただ支援を行っているだけになってしまう危険性があります。

「丁寧な支援」とは、職員が支援を行う原点に立ち返り、日常支援を丁寧に行うことによって、利用者様に満足した生活を送っていただくための指針となるものです。

障害をお持ちの方で、ご相談等がありましたら、最後のページに連絡先が記載されていますので、すみれ園までご連絡をお待ちしております。



堇授園



堇授園
生活支援係長

利用者様自治会活動について

堇授園には、利用者様が運営・企画する自治会があります。日頃、生産活動に力を注いでいる利用者様にとって自治会の活動は楽しみなようです。中でも、日帰り旅行、ショッピング、夕食会は参加者が多く、大変好評です。今年度の日帰り旅行では、日頃食べることのないコース料理を体験しました。ナイフとフォークが目の前にたくさん並んでいることに戸惑いながらも満足した様子が見られました。ショッピングはイオンを中心に行っていますが、限られた時間の中で楽しまれているようです。夕食会においても美味しかったと笑顔で帰ってこられます。企画をする役員の方々は大変だと思いますが、気分転換を図り、楽しく快適な生活が送れるよう、今後もいろいろな企画をしていきたいと思っています。そして、園内では見られないとても楽しそうにしている姿は、私たち職員にとって励みになります。情報提供を行い、様々な体験をしていただき、有意義な生活が過ごせるようお手伝いさせていただきます。



外来診療担当医表 平成31年1月

() 専門科目

診 療 科		月	火	水	木	金	土	
脳 外 科	午 前	1	中 原	中 原	中 原	中 原	中 原	
		2	五 味	長	黒 川	手 塚	長	黒 川
外 科	午 前	1	佐 藤	佐 藤	佐 藤	佐 藤	佐 藤	田 中
		2	田 中	田 中		田 中	田 中	
●水の外科外来は予約のみとさせていただきますのでご了承ください。								
内 科	午 前	1	玉 野	玉 野	玉 野	川 越	川 越	長 山
		2	川 越	大 内	木 村	田 島	磯 田	大 内
						(循環器)		
		3	福 島	磯 田	阿部田	福 島	武 井	(予約)新 保
							(内分泌内科／糖尿病)	(循環器内科)
		5	矢 澤		磯 田	阿治部	大 内	
		(循環器)			(消化器)			
	7	曾我部	村 上	高 崎	磯 田	海老澤		
		(呼吸器)	(内分泌内科／糖尿病)	(呼吸器)		(漢方外来)		
	午 後 (予約のみ)	1	阿治部	村 上			小笠原	
		(消化器)	(内分泌内科／糖尿病)			(神経内科)		
2		齋 藤						
	(循環器内科)							
●内科外来の午後は予約のみとさせていただきますのでご了承ください。								
専 門 外 来	午 後	村 田	加 藤					
		(睡眠呼吸障害／予約のみ)	(漢方専門外来)					
	午前・午後 (午後予約のみ)		北 川					
			(循環器)					
心臓血管外科	午 前		小久保		小久保			
小 児 科	午 前	獨協医大交代制	長 尾	長 尾	刈 屋	佐 藤	自治医大交代制	
	午 後	獨協医大交代制	長 尾		刈 屋	佐 藤		
整 形 外 科	午 前	藤 田			藤 田	萩 原	第1、3、4、5 木村	
●月・木の整形外科は予約と紹介患者様のみ、金(第1、3、5)は大学診療のため時間前に受付終了となります。土(第2)は休診となります。予約外の患者様はお待ちいただきますのでご了承ください。								
痛みの外来	午 前			佐 藤				
皮 膚 科	午前・午後		池 上			金 井		
泌 尿 器 科	午 前		別 納		神 原		幸	
●土曜日の受付は10：30までとさせていただきます。								
眼 科	午前・午後		高 山	高 山 午前のみ	新井・西田 交代制	高山 午後は予約のみ		
歯 科 歯科口腔外科	午前・午後 (土は午前のみ)	1	串 田	串 田	串 田	大谷津	串 田	
		2	渡 邊	大谷津	大谷津	岡 田	大谷津	
		3			杉 浦	仙 名	杉 山	
専 門 外 来	午前	第2、4 神部 第3 野口				第2、4 森		

※受付時間《午前の部》 月・火・木・金 (7:30~11:30) 診療開始 9:00
 水・土 (7:30~11:00) 診療開始 9:00
 歯科・歯科口腔外科 (8:30~11:00) 診療開始 9:00
 ※水・土の午後 及び 日・祭日は、休診です。
 ※診察の際は、保険証をご提出ください。

《午後の部》 皮膚科・眼科 (13:00~15:30) 診療開始 14:00
 ＊眼科(木) (13:00~15:00) 診療開始 13:30
 内科 (13:00~16:30) 診療開始 14:00
 小児科 (14:30~16:30) 診療開始 15:00
 歯科・歯科口腔外科 (13:30~16:00) 診療開始 14:00 水の午後も診療します。

※受付時間外及び休診日に救急診療を希望される方は、あらかじめ電話でお問い合わせください。

安心が地域に根ざす 医療法人恒貴会・社会福祉法人恒徳会

協和中央病院

・脳神経外科・外科・消化器科・内科・漢方内科
 ・呼吸器科・ペインクリニック内科・整形外科
 ・小児科・放射線科・皮膚科・泌尿器科
 ・リハビリテーション科・麻酔科・眼科
 ・歯科・歯科口腔外科
 茨城県筑西市門井1676番地1
 電話0296-57-6131(代)
 E-mail: kyowa@kokikai.com

協和南病院

療養病床
 茨城県筑西市門井1674番地1
 電話0296-57-5133(代)
 E-mail: minami@kokikai.com

協和ヘルシーセンター

介護老人保健施設
 茨城県筑西市門井1669番地2
 電話0296-57-6030(代)
 E-mail: healthy@kokikai.com

大和クリニック

茨城県桜川市大国玉2513番地12
 電話0296-58-7788(代)
 E-mail: yamato@kokikai.com

訪問看護ステーション

愛美園

茨城県桜川市大国玉2513番地12
 電話0296-20-6780(代)
 E-mail: aibien@kokikai.com



障害者支援施設 すみれ園

茨城県筑西市門井1677番地21
 電話0296-57-5125(代)
 E-mail: sumireen@kohtokukai.jp

障害者支援施設 堇授園

茨城県筑西市門井1687番地1
 電話0296-57-3400(代)
 E-mail: kinjyuen@kohtokukai.jp

障害者支援施設 桃香園

茨城県桜川市大国玉2513番地10
 電話0296-58-7870(代)
 E-mail: tohkaen@kohtokukai.jp

新型特別養護老人ホーム

恒幸園

茨城県筑西市向川澄98番地1
 電話0296-57-7268(代)
 E-mail: koukouen@kohtokukai.jp



編集後記

明けましておめでとうございます。寒い日が続いておりますが、平成最後のお正月を迎えることとなりました。皆様インフルエンザや胃腸炎にはお気をつけください。

当院では11月6日より最新式CT装置が稼動しております。患者様に高画質な画像、負担の少ない検査をご提供できるようにスタッフ一同心掛けております。

広報誌『はぐるま』も今回で97号を発行することができました。ご多忙の中、ご協力いただきました皆様ありがとうございました。

(野村)

※写真等の個人情報は、ご本人の同意を得て、掲載させていただいております。

●発行責任者／中原昇

●編集委員／相澤明美 飯泉茂徳 上野敏子 堤谷博之 杉田恵美子 野村正浩 高松紀平／猪野貴之 廣瀬俊樹

〒309-1195 茨城県筑西市門井1676番地1 TEL.0296-57-6131